

## 社交不安傾向と空間周波数の低い表情画像に対する回避との関連

ML15-7009C 小田島裕佳

専修大学人間科学部心理学科・大学院文学研究科心理学専攻「人を対象とした研究倫理委員会」の承認を得て実施した研究は、「メンタルヘルスと低空間周波数画像に対する反応との関連(承認番号：16-ML157009-3)」です。本研究にご参加いただいた方へのフィードバックとして、研究の目的と、結果から得られたことについて以下に簡潔に記載いたします。以下の内容に関して、疑問点やより詳細な内容についてご興味ございましたら、指導教員の国里愛彦までお問合せください。

### 問題・目的

社交不安症では、アイコンタクトを避けたり、社交場面を避ける行動(回避行動)が社交不安の維持に関連していると言われています。社交不安が高い人は怒り顔などを避ける傾向があること、社交不安が低い人に比べて、ぼやけた顔画像の処理が早いことが報告されており、社交不安症における回避にはぼやけた顔表情の情報処理が関連している可能性があります。その関連については検討されてきませんでした。

本研究では、社交不安傾向と顔表情に対する回避にぼやけた顔画像の処理が関連するのか、ぼやけた顔画像の表情を正確に把握することが出来ているのかを検討しました。それによって、社交不安症の維持に繋がる回避のメカニズムに関する基礎的な知見が得られると考えました。

### 方法

大学生 60 名を対象に、パソコン画面に呈示された顔表情画像(通常の画像とぼやけた画像)をレバーを使って分類する課題、顔画像の表情を判別する課題、さらに社交不安の程度を測定する尺度を含めた質問紙調査を実施しました。

### 結果と考察

顔画像の表情の種類や画像のぼやけ方に関わらず、社交不安傾向と顔画像を回避する傾向との関連は見られず、社交不安症における回避にぼやけた顔画像の処理が関連していることは示されませんでした。また、抑うつ症状の影響を取り除いた場合には、社交不安傾向がぼやけた笑顔の顔画像における表情判断の正確さに影響を与えている可能性が示唆されました。